

「令和8年度病虫害発生予報第8号」の発表について

○今後の主要な病虫害の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 果樹では、果樹カメムシ類の発生が、東海及び四国の一部の地域で多いと予想されています。
- ・ 大豆では、吸実性カメムシ類の発生が、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 野菜・花きでは、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、南東北、北関東、北陸、東海、近畿及び南九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、かんきつのハダニ類等、地域によっては多くなると予想されている病虫害があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期の防除を実施してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等进行分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病虫害防除所のホームページ等を参照してください。

- ・ 国の病虫害発生予察情報及び都道府県病虫害防除所のリンク

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

総合防除の実践

温暖化等の気候変動や薬剤抵抗性の発達等を背景に、病虫害・雑草への対応が年々難しくなっています。このため、消費者に支持される食料の安定的な供給が確保されるよう、「予防・予察」に重点を置いた総合防除によって、病虫害・雑草が発生及び増加しづらい生産環境を整え、持続的かつ効果的な防除を適時適切に実施し、病虫害・雑草のまん延防止及び農作物への損害の発生を軽減することが重要です。

- ・ 総合防除実践ガイドライン

参照URL: https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/attach/pdf/index-34.pdf

- ・ 総合防除実践マニュアル

参照URL: https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/attach/pdf/index-44.pdf

気象庁の向こう 1 か月の予報（10月 1 日付け）では、平均気温は、全国的に高いと予想されています。降水量は、北日本及び東日本日本海側でほぼ平年並、東日本太平洋側及び西日本日本海側で平年並か少ない、西日本太平洋側及び沖縄・奄美で少ないと予想されています。日照時間は、北日本及び東日本日本海側で平年並か多い、東日本太平洋側、西日本及び沖縄・奄美で多いと予想されています。

- ・ 気象庁ホームページ

参照URL: <https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/>
(外部リンク)

豆類で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
大豆	吸実性カメムシ類	近畿、北九州	四国

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

・**吸実性カメムシ類(大豆)**の発生が、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、京都府から注意報が発表されています。本虫の被害は収穫時まで続くため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場内の観察をきめ細かく行い、早期発見に努めましょう。薬剤散布を行う場合には、薬液が着莢部に十分付着するよう、丁寧に散布してください。また、本虫は広範囲に移動するため、発生状況等を地域で共有して、可能な限り地域一斉の防除を実施してください。

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	アブラムシ類	北関東	東海、北九州
	ハダニ類	北関東、東海、北九州	
トマト	コナジラミ類	北関東	甲信、中国
ねぎ	黒斑病		南東北、北関東、甲信
きく	ハダニ類		北関東、中国、北九州
作物共通	オオタバコガ	北関東、東海、南九州	甲信
	シロイチモジヨトウ	北陸、近畿、南九州	南東北
	ハスモンヨトウ	南東北、東海、南九州	甲信、北陸、近畿、四国 北九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

作物共通

・オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、南東北、北関東、北陸、東海、近畿及び南九州の一部の地域で多くなると予想されており、熊本県では注意報が発表されています。これらは、いちご、ナス科野菜（トマト、ピーマン等）、アブラナ科野菜（キャベツ、ハクサイ等）野菜等の多くの作物を加害します。

幼虫は果実や花蕾、結球の内部に食入し、品質低下や結球不良を引き起こすため、発生初期の防除が重要です。都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場内の観察をきめ細かく行い、早期発見に努め適期に防除を実施してください。被害残渣は発生源となるため、ほ場外へ持ち出して適切に処分して下さい。施設栽培では、開口部に防虫ネットを適切に展張し、成虫の侵入を防止してください。

なお、一部の薬剤に対して感受性の低下が認められていることから、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、同一系統薬剤の連用を避け、効果の高い薬剤を適切に選定してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
果樹共通	果樹カメムシ類	東海、四国	中国
かんきつ	アザミウマ類	東海	北陸、北九州
	ハダニ類	東海、北九州	四国

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

果樹共通

・**果樹カメムシ類**の発生が、東海及び四国の一部の地域で多いと予想されており、静岡県から警報が発表されています。

気象庁の1か月予報(10月1日付け)によれば、平均気温は全国で高い見込みとなっており平年より遅い時期まで、園地へ飛来するおそれがあります。都道府県が発表する発生予察情報等を参考にしつつ、特にスギ・ヒノキの球果が豊富な地域では、主要種であるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシが今後も園地に飛来するリスクがあることから、引き続き飛来状況に留意してください。

・カメムシ類の防除

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusi.html#kajyukamemusirui>

次期作に向けた水稻害虫対策について

・水稻の再生株(ひこばえ)は、ヒメトビウンカの越冬源及びイネカメムシの栄養源となり得ます。このため、これらの害虫の発生地域では、密度低減のために収穫後は速やかに耕起し、すき込んでください。

・スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)は、田植え直後の葉や茎が柔らかい時期に水稻を加害します。気象庁の寒候期予報(9月18日付け)によれば、12月～2月の平均気温は北東北で平年並か高い、東日本、西日本及び沖縄・奄美で高いと予想されており、寒気の影響が小さいと予想されています。翌春の発生を抑えるため、収穫後の防除として、都道府県が発表する発生予察情報等を参考に、秋期の石灰窒素の散布や、冬期の耕うん等の準備を実施してください。

農林水産省では、被害防止対策に関するマニュアルや動画などをホームページに掲載しています。また、農研機構植物防疫研究部門を代表機関とするコンソーシアムが、防除技術、リスク地図等を紹介する「スクミリンゴガイの防除支援マニュアル」を公開しています。詳しくは下記URLからご覧ください。

・スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の被害防止対策について

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>

・スクミリンゴガイの防除支援マニュアル

参照URL: <https://ml-wiki.sys.affrc.go.jp/applesnail/start>

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和8年9月17日以降、都道府県が発表している警報及び注意報は以下のとおりです。

警報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
10月1日	静岡県	かんきつ、落葉果樹	果樹カメムシ類

注)重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
9月25日	京都府	黒大豆・小豆	吸実性カメムシ類
10月1日	沖縄県	マンゴー	ハダニ類
10月1日	沖縄県	小ギク	黒斑病、褐斑病
10月2日	島根県	カキ	炭疽病
10月2日	熊本県	野菜類、花き類、大豆	チョウ目害虫 (シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ)

注)警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。当該地域で病害虫による経済的被害が発生したことを示すものではありません。

特殊報

令和8年9月9日以降、都道府県が発表している特殊報は以下のとおりです。

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
9月9日	青森県	ミニトマト	トマト黄化葉巻病
9月16日	沖縄県	ピーマン、トマト	トウガラシ黄化病（仮称）、トマト黄化病
9月17日	栃木県	なし、ぶどう、くり	モンシロハゴロモ
9月18日	滋賀県	大豆（水田転換畑）、水田 けい畔	カロライナツユクサ
9月24日	宮崎県	カンショ	ムツスジアシナガゾウムシ
9月24日	大分県	ニラ	ニラフシダニ
9月25日	福井県	トマト	クロテンコナカイガラムシ

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
9月30日	宮崎県	ピーマン	グアバネコブセンチュウ

注)各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど、生産現場への影響が懸念される場合に発表します。

病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

見慣れない病害虫被害が発生していた場合の対応

我が国未発生又は我が国の一部のみが発生している重要病害虫が、万が一国内の未発生地域に侵入した場合、国内の農業生産に重大な損害を与えるほか、農産物の輸出を阻害するおそれがあります。こうした重要病害虫の侵入に伴う国内の農業生産や輸出への影響を防止するためには、国内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することが重要です。

農作物に見慣れない病害虫被害が発生していた場合には、最寄りの植物防疫所又は都道府県の病害虫防除所等にお知らせください。

- ・植物防疫所の連絡先
参照URL：<https://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/dsinnyuu/221121.html>
- ・都道府県の病害虫防除所の連絡先
参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujoshou.html>

用語解説

(地域)

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

(発生量(程度))

多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い(やや高い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない(やや低い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅
（平年値は過去10年間の平均）

（参考）今後の発表予定日
第9号：令和8年11月11日（水曜日）
第10号：令和9年3月10日（水曜日）

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382